親鸞聖人に聴く

大沼法竜 著

敬行寺発行

はしがき

英国の詩人マーチン氏が彦根城に昇り、四方の景色を眺めつゝ「小人は琵琶湖が見える、大人は日本が見える、偉人は世界が見える」と詩を作り、もし世界の情勢を察知し得なくて開港しなかったなら、日本は恐らく英米仏露の殖民地に分割されていただろうと伊井大老を賛嘆した詩である。

俗人は文字が読める、僧侶は文意が読める、体験者は紙背が読める。

戦時中B29が撃墜された中の日本の三世が、軍法会議で、祖国を爆撃するのは以ての外だと罵倒された時、平然と「早く降伏してもらいたかったからです」「馬鹿、わが帝国が降伏すると思っているか」「それは米国の物量を知らないからです。都市はもとより村落に至るまで灰燼に帰すれば、日本の再起が不能になるからです。一日も早く平和を望んだから爆撃したのであります」裁判官も唖然としていた。

浄土真宗も真俗二諦、現当二世、金瓠無欠と自負しているけれども、寺院の衰微、門徒の離散、ようやく読経、葬式で命脈を保持しているけれども、瓦解の寸前に到達しているではないか。なぜ金看板の文字に固執していて、不思議の仏智の体現をしないのだ。低級な新興宗教の猛煙に吹きまくられて、気息奄奄たる状態ではないか。

毅然と立ち上る勇士はいないのか、猛然とこの難局を切り抜ける傑僧はいないのか、隆々と浄土真宗を荷うて立つ傑士はいないのか。

現生の救済を忘れて、死後の往生を夢見ている宗教は滅びる。

祖師の平生業成を忘れて、死後を有難がっている者は、祖師の真意を喪失していると同時に彌陀、釈迦二尊の本意に背いているから、宗教が衰滅するのは当然である。

演習は易いが、実戦は難しい。机上の空論は易いが、実地の体験は難しい。

艫綱を解かずに櫓を漕いでいるのだもの、舟の進む道理がない。実機を抜きにして法を眺めているのだもの、観念の遊戯をしているのだもの、摂取さるゝ筈がない。摂

取されていないのだから、大歓喜もなければ大懺悔もない、二種深心が徹底していないのだから信仰はお留守なのだ、二種深心がお留守なら贋物の信仰だ、信仰が贋物で宗教の大改革のできる筈がない。

宗教が衰滅離散しているのは、真理に背反しているからだ。信仰が萎靡沈滞しているのは、仏祖の意志に違背しているからだ。

僧俗一体となって総決起し、起死回生の大手術をしなければならない。その方法を如何にすればよいか祖師聖人にお伺いして、指示を仰ぎ実行するより道がない。

聖人様お願い申し上ます。

蟹は甲羅に応じた穴を掘る、信仰も自分の進んだ程度しかわからないのです。富士に登山しても、三合目でも五合目でも下界の景色が展開しているから、自分の程度が本当だと信じている、盲人が巨象をさすって闘争しているが、象全体が見えないように、仏法も各自の程度で安住している。化土の業因千差なるが故に、化土の結果も万

別です。皆私の言葉の真似をしているだけで、似せている信仰だから贋物です。自信が徹底していないから、神通自在の無碍の大道を歩んでいない。それで低級な濁流に押流されて、信仰が混乱しているのです。

それなら私が徹底的に信仰の質問さして頂きますから、聖人様の御聖教で御解答をお願い致します。